

広土会新聞

第28号

2024.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

広土会創立 55 周年を迎えて



広土会会長
石井 義裕

広土会創立 55 周年記念事業を 2023 年 9 月 30 日（土）にリーガロイヤルホテル広島にて開催いたしました。第 1 部では、鶴健太郎氏（鶴学園理事）を講師としてお迎えし、「人想う、どこまでも。」と題して記念講演会を開催し、120 名余の同窓生の皆様のご参加をいただきました。第 2 部の記念祝賀会におきましては、390 名余のご参加をいただき、感謝申し上げます。

佐藤 稔実行委員長の開会宣言の後、鶴 衛氏（鶴学園理事長）からのご祝辞では“土木工学は社会に必要な学問であり、これからも多くの同窓生の力が必要とされている”とのお言葉をいただきました。マリンバと打楽器のコラボ演奏や、環境土木工学科学学生有志の制作した、大学や土木系学科の過去・現在・未来を紹介する映像作品が上映され、皆様が在学中のことを懐か

しまれていました。多くのテーブルでは、旧友や先輩・後輩、組織の垣根を越えて熱く語り合う姿が特徴的でした。最後には全員で大学歌を大熱唱となりました。

2024 年には土木系学科は 60 周年、5 年後の 2028 年には同窓会が 60 周年を迎えます。皆様と再び一堂に会することを楽しみにしています。若い同窓生の皆様におかれましても、60 周年を機に是非一度、ご参加下さい。

環境土木工学科の近況を御報告申し上げます。2023 年度は写真にもありますように教職員 14 名で学生の教育・研究にあたっています。2023 年 4 月からは、同窓生でもある沖広秀則氏（1980 年卒）を学生アドバイザー（教授）としてお迎えしました。一方で、2024 年 3 月には坂井 学教授（健康科学）が定年退職されます。坂井先生におかれましては、1983 年に本学に着任後 41 年間にわたり健康科学分野において研究と指導者として活躍され、健康スポーツ科学の授業やサッカーの指導を受けられた方も多いことと思います。村中先生におかれましては、2024 年度も引き続き教育指導をお願いして

います。研究室も変わっていませんので、来学の際には是非、研究室を訪ねて頂ければと思います。小堀先生には引き続き客員教授として学生の資格取得（特に技術士 1 次試験）に、ご尽力頂いており、小堀塾の受講者が在学中の合格に結びついています。

2023 年度は 66 名の入学生があり、学科全体では在籍学生が 298 名（2023 年 4 月時点）となっています。2024 年 3 月に卒業生する予定者は 63 名となっており、本学大学院への進学者も 2 名います。同窓生の皆様のご尽力も有り、就職率は 100% 近くとなり大変感謝申し上げます。大学院修了者の就職においても、よろしく願い申し上げます。現在、就職活動に励んでいる現 3 年生は 92 名おり、大学院進学者希望者も数名いるとのことです。引き続き、学生・大学院生の就職へのご協力・ご支援をお願いいたします。

最後になりますが、広土会会員の皆様の益々の発展とご健康を祈念して、挨拶とさせていただきます。



SMART
CONSTRUCTOR

進化するケンセツ

KATO
Construction Co., Ltd.



総合建設コンサルタント
株式会社 栗本

代表取締役社長 下花 眞二

本社 〒734-0011
広島市南区宇品海岸三丁目13番28号
TEL(082)250-8515(代表)

心の映像カタチにします
建設クリエイター

総合建設業



株式会社 栗本

代表取締役社長 前川 拓也
〒733-0035
広島市西区南観音7丁目14番20号
TEL (082) 293-8500
FAX (082) 295-8231
【営業所】 岩国

<http://www.kurimoto-gr.co.jp>

広土会 55 周年記念



ご挨拶

実行委員長 (18 期生)

佐藤 稔

広土会創立 55 周年記念事業実行委員長を務めさせていただきました昭和 61 年卒業第 18 期の佐藤です。

令和 5 年 9 月 30 日にリーガロイヤルホテル広島にて開催いたしました記念事業懇親会には、鶴理事長をはじめ平口衆議院議員、松田同窓会会長、大学の恩師並びに現役の先生方々のご臨席を賜り、広土会の皆様を含め総勢 283 名のご参加で盛大に開催することができましたこと、厚くお礼申し上げます。

振り返れば新型コロナとの闘いが続く令和 4 年 9 月、竹内顧問、狭戸尾顧問、廣本幹事長と 55 周年記念事業を開催するかどうかを話し合い、繋げていくためにはやらないといけないということで、1 年後の新型コロナの衰退を祈りながら開催を決めました。新型コロナの 5 類移行の検討が始まったのが 11 月になってからで、1 月に方針が決定され、5 月 8 日に移行されました。結果として新型コロナに大きく影響されることなく 5 年周期で記念事業を開催することができました。

広土会は 1 期生の方が 80 歳に近づいておられ、これまで半世紀を超える歴史を積み重ねてきました。昭和 43 年 10 月に建設技術の向上、会員の親睦等を図ることを目的に広島工業大学工学部土木工学科の卒業生、在校生及び教職員を構成員として結成され、土木工学科は、建設工学科、都市建設工学科、都市デザイン工学科を経て現在は環境土木工学科と変遷しています。学内の本部をはじめ全国に 11 支部を置き、会員数も 5,000 名を超える大きな組織に発展しています。

前回同様に記念事業の参加者は 90% が 30 期までの卒業生で、55 期生までの若い世代の卒業生の参加が極端に少ない状況は変わりませんでした。年齢を重ねるとともに同期生に会いたくなったり、身近な同窓生の存在のありがたさを感じるようになるものです。若い世代の皆様が広土会の「繋がり」の大切さに気付くきっかけにするためにも、今後の記念事業の開催方法に工夫を凝らしつつ、さらなる広土会の飛躍を願い 60 周年へとつなげていきたいと思っています。

全国各地で活躍されている広土会会員の大部分の皆様が所属する建設産業を取り巻く環境は依

然として厳しい状況が続いています。とりわけ人手不足や働き方改革など大きな課題が横たわっていますが、記念事業で実感できた広土会のパワーでこの難局を乗り越えていただきたいと思います。

最後になりますが、広土会創立 55 周年記念事業の開催にあたり、多大なるご協力とご支援をいただきました関係者の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、広島工業大学並びに広土会の益々の発展と広土会会員の皆様のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



広土会 55 周年 記念講演会について

広島西支部 (18 期生)

新田 幸秀

広土会創立 55 周年、誠におめでとうございます。55 周年記念事業にあたりましては、広土会広島支部、広島西支部役員及び創立 55 周年記念事業実行委員の皆様には、準備から開催までご尽力をいただき、厚く感謝いたします。

この度の、広土会創立 55 周年記念事業の記念講演会は、学校法人鶴学園理事 総合戦略部 部長 鶴健太郎様に「人を思う、どこまでも」を演題として講演をいただきました。少子高齢化が加速していく中、数ある教育機関から鶴学園を選んでもらうため、学園教職員が一丸となって同じ方向を向く。そのためにブランディングを実施し、学園、各校のパーパス・ステートメント、ロゴを作成されており、これらに込めた思いなどについての内容でした。この講演を聞き、鶴学園が、まさにブランド化されているなど、私自身感じました。

思い出しますと、私は昭和 57 年に広島工業大学 土木工学科に入学し、(ちなみに 学生番号 574087 でした。)ギリギリの成績で、なんとか 4 年後の昭和 61 年 3 月に卒業。その後は大学にも足を運ぶこともなく、大学がどう変化をしていくのかも考えない日々を送っておりました。こうした状況の中、私の長男が広島工業大学を受験し、入学することとなり、(長男は新たに創設された生命学部 生体医工学科で私とは違う学科ですが。)どれだけぶりに大学に行ってみますと、以前からの建物はある中で、洗練された新たな建物が建設されており、中に入ってみると、近代的で学生にとっては学生生活がまさしく楽しめそうで、かつ充実した時間を過ごせそうなものと感じ、鶴学園は進化しているなど感じました。そうした印象を持っている中、今回の講演は、鶴学園の価値をさらに高めていくという施策を行ってきたという内容でした。そのようなことから講演を聴いた後日、何気なく鶴学園のホームページを開いてみま

すと、演題でもある「人を思う、どこまでも」は、最初に出てくる言葉でした。新たに策定されたパーパス・ステートメントである「人を思う、どこまでも」は、学生に対する教職員の向き合い方、他者に対する学生の向き合い方が込められており、限らない人への愛と、新たな学びへの情熱を持って進化をつづける鶴学園の約束ということです。また、一新された鶴学園のロゴについてもお話がありました。ここではロゴをお示しすることはできませんが、イメージをしてもらおうと、大きく柔軟な翼を持つ「鶴」をモチーフとして、力強くしなやかに未来へ羽ばたく姿。鶴の体は前方を、頭部は後方を見、学生を最後まで見る、絶対に取り残さないという姿勢を表現しているということです。こうしたお話を聞くと、これからの鶴学園のあり方をしっかりと考え、学生に向き合っておられると痛感し、鶴学園の今後の変化を私自身も見守っていきたいと思いました。

最後に、今回の講演をいただき、鶴学園をさらに進化させようとする鶴健太郎様に厚くお礼を申し上げるとともに、鶴学園の発展を期待し、記念講演の報告とさせていただきます。

支部だより



広土会55周年記念事業に寄せて

関東支部長 (18 期生)

樽垣 誠

「広土会創立 55 周年」、まことにありがとうございます。紙面をお借り致しまして、創立 55 周年記念事業を準備から開催まで御苦労された幹事の皆様には、厚く御礼申し上げます。

広土会 55 周年記念事業は、昨年 9 月 30 日(土)に、リーガロイヤルホテル広島にて盛大に行われましたが、記念事業に先立ち、同ホテル安芸の間において広土会支部長会議が開催され同会議に参加致しました。新型コロナの影響で久しぶりの対面会議となり、小職も久しぶりの広島訪問となりました。各支部とも当然のことながら高齢化が進んでおり、若手会員の参加を如何に増加させるかが、重要課題であると改めて痛感致しました。

ところで、広土会 55 周年記念事業ですが、鶴 健太郎氏の「人を思う、どこまでも。」記念講演に始まり、現在の少子高齢化社会における鶴学園の魅力の再確認を目的としたプランニングと発信力に尽力頂いている様子が、ひしひしと伝わり、今後、広島工業大学が世の中に広く認知され、多



明るく伸びる



株式会社 伏光組

代表取締役 伏見 光 暁

本社 〒734-0013 広島市南区出島 1 丁目 3 番 6 1 号

TEL (082) 253-6161 FAX (082) 254-4581

(支店) 松江 (営業所) 三次

ソーシャル・レジリエンス実現企業として
～ 安全・安心・快適、そしてその先へ ～

MASUOKA

増岡組

広島 広島市中区鶴見町 4 番 25 号 TEL 082-504-5050
呉 呉市中央一丁目 6 番 28 号 TEL 0823-21-1441
URL <https://www.masuoka-g.co.jp/>

総合建設業



占部建設工業株式会社

代表取締役 占部 寛

本 社 〒720-0816 福山市地吹町 18 番 16 号
TEL(084)922-1254 FAX(084)922-1276
広島支店 〒738-0004 廿日市市桜尾二丁目 8 番 3 号
TEL(0829)32-1224 FAX(0829)32-8779
井原営業所 〒715-0022 井原市下出部町二丁目 22 番 4 号
TEL(0866)67-1300 FAX(0866)67-1215
広島営業所 〒731-5135 広島市佐伯区海老園 4-4-44
TEL(082)921-2617 FAX(082)921-5443

くの優秀な学生さんが集まるための手腕に、大いに期待するところであります。

講演会に続き、4F ロイヤルホールで懇親会が行われ、大学教職員、在学生、関係者及び広土会会員の多くの方々が集う盛大な懇親会となりました。小職も前回 50 周年記念事業には参加をさせて頂いておりましたので、多くの方々とは 5 年ぶりの再会となりましたが、中には大学卒業以来 38 年ぶりに再会する同期生もいて、大変有意義な懇親会となりました。我々 18 期は令和 5 年度に還暦を迎え、会社勤めをする人においてはひと区切りの重要な歳であるので、同期生との会話も、今後の人生観と体調に関する話で大いに盛り上がりました。還暦を過ぎててもまだまだ社会に貢献すべく引き続き活躍する同期生を見て、自分自身もまだまだ頑張らなければならないと、改めて心に期するものがありました。

広土会関東支部の状況ですが、2019 年 3 月に第 26 回広土会関東支部総会および懇親会を開催して、まる 5 年が経過します。本年は第 27 回広土会関東支部総会および懇親会を今春開催する予定であります。その様子は今後の会誌にて報告をさせていただきます。

最後になりましたが、広土会の益々の発展と、会員様におかれましては健康に留意され、益々のご活躍をお祈りしております。



広土会創立55周年に寄せて

関西支部長 (14 期生)

川岡 靖司

広土会創立 55 周年、誠におめでとうございます。記念式典の準備にご尽力いただいた実行委員の皆様お疲れさまでした、ありがとうございました。コロナ禍を跨ぐように 50 周年と 55 周年の式典を続けて開催することができたことを喜んでいます。当日は、久しぶりにクラスメートに会うことができ、弓道部の先輩とも話ができました。何よりも鈴木健夫先生の張りのあるお声を聴くことができ、学生時代を思い出しました。

ところで、関西支部では春の花見と秋の総会を行っています。福原輝幸会長(当時)や各支部長に出席いただいた 2019 (令和元) 年 9 月の総会以来、新型コロナの影響で集まることができませんでしたが、2023 年 4 月に花見をして、関西支部の皆さんと会うことができました。この花見では、久々に本来の目的である新メンバー(後藤琢朗氏、55 期)の歓迎会とすることができました。とはいえ、4 年間で様変わりするもので、夙川公園ではブルーシートを広げての宴会が禁止となり、近くの居酒屋での飲み会になりました。

また、2023 年 9 月に村中昭典先生に出席いただき総会を開催し、大いに盛り上がりました。

さて、広土会のホームページでは、広土会新聞のバックナンバーが閲覧でき、1994 (平成 6) 年 4 月 1 日発行の創刊号から全てがそろっています。第 5 号の久保田政壽氏(1 期)が投稿された「太田隆三君を偲んで」によると、関西支部は 1971 (昭和 46) 年 7 月に桜井季男先生、岡野兼夫先生に出席いただいて発足式が行われたこと、1972 年春

から新入社員の歓迎会として夙川公園での花見を始めたこと、など支部創設当時のことがよくわかります。55 年とは長い年月だと再認識しました。ちなみに、私は 5 代目の支部長のです。

関西地区にお住まいの方は、関西支部の行事の連絡をさせていただきますので、下記アドレスに連絡くだされば幸いです。

kansaikodokai@kodokai1968.jp

(広土会の HP から入手できます)



近況報告

島根県支部支部長 (16 期生)

多久和 豊

令和 5 年 12 月 9 日松江市内において、令和 5 年度の広土会島根県支部総会を兼ねた忘年会を開催しました。コロナで数年お休みしていた同会ですが、一昨年に再開し 2 年連続の開催となります。

参加人数は、最年長の 2 期卒業 O 先輩から最年少 55 期卒業の Y さんまで、歳の差 53 歳のお二人を含めた 16 名。工大からは来賓として村中先生にお越しいただきました。

55 期卒業の Y さんは現在 23 歳。私の娘達が受けたゆとり教育後の「脱ゆとり世代」と称される年代です。若さはもちろんですが、人当たりも優しく爽やかでかつイケメン。お話ししただけでパワーをいただきました。

昔、現在 60 歳代の私達が若者だった頃、諸先輩方から「新人類」と呼ばれていました。「あいつらは何を考えているのかわからん」というやっかみを含んだ呼ばれ方だったような気がします。

今、ゆとりや脱ゆとり世代と称される若者が共通して大切にしているもののひとつに「家族」があります。どの世代においても家族は大切ですが、家族との時間を大切にすることへの執着は若者の方が圧倒的に強いことは、新人類世代が切実に感じている周知の事実です。世代間ギャップはいつの時代にも存在します。我々が新人類と呼ばれていた時、自分達が生き方や考え方を変えた記憶はありません。この歳になって感じるのですが、恐らく諸先輩方の柔軟な対応に支えられていたのだと思っています。

本懇親会では最年長の O 先輩が趣味の陶芸で作成された盃を、参加者全員にプレゼントしていただきました。趣味で充実している近況をお話しされながら一人一人に盃を配られる先輩に対し私が、「来年はとっくりもお願いします」と無茶ぶりしたところ、笑顔で了解していただきました。次会が待ち遠しいです。

歳の差 53 歳の皆さんが集った宴会は、今年も和気あいあいと盛り上がりました。



55周年記念事業によせて

東部支部 (18 期生)

後迫 浩司

広土会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。昭和 61 年卒業第 18 期生の後迫です。

新型コロナウイルスの規制が解除され、55 周年記念事業に参加する事が出来ました。

開催に際しまして、担当の広島支部、広島西部支部の皆様方、関係者の皆様方のご尽力に感謝いたします。

昨年 9 月 30 日(土) 17 時よりリーガロイヤルホテル広島において開催されました。

今回、記念講演会より参加させて頂きました。鶴健太郎講師による「人を想う、どこまでも。」という演題で鶴学園の現状や、今後の方針等についてわかりやすくお話を頂きました。少子化や理系を敬遠する風潮により、学生の獲得が難しくなった今日、永続的に鶴学園を運営していく方向性をお話いただきました。若く才能のある方が新しい発想の基、運営に努力されている事がわかりました。最近、テレビのコマーシャルで広島工業大学を拝見することが多くなっています。見るたびに、一人でも多くの学生が選んでくれればと願っています。出来れば土木工学科を選択してもらえると嬉しいのですが…。他の大学では、土木系の学科が無くなり、技術者の不足による基盤整備にも、大きく影響を与えています。工大土木学科がこの先永続出来るよう応援をしていきたいと思っています。

祝賀懇親会ですが、230 名を超える参加者で盛大に開催されました。在校生や多数の恩師の方々、多彩なアトラクションにより楽しい懇親会でした。特に、還暦を迎えた 18 期生との再会は、嬉しかったです。卒業以来の方もいて、大変懐かしく 40 年前の青春時代を蘇らせてもらい、心と時間を過ごす事が出来ました。また、鈴木先生、伊藤先生、村中先生他、当時お世話になりました先生方のお元気な姿、お声を聴くことが出来たことにも感謝しました。これからもお元気でいていただきたいと思います。

私も健康に過ごし、是非とも次回の 60 周年記念事業に参加したいと思っています。

最後になりますが、広島工業大学及び広土会の益々の発展と広土会会員の皆様のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



広土会県北支部35年を迎えて

広島県北支部長 (10 期生)

國原 定明

広島工業大学広土会創立 55 周年おめでとうございます。また、広土会本部の役員や実行委員会の皆様、御苦勞さまでした。私は、都合悪く出席出来ませんでした。

さて、広土会創立 55 年を迎えられましたが、広島県北支部も今年 8 月に 35 年を迎えます。

支部の活動として、役員会・定期総会以外に平成 28 年 11 月に全線廃線となる JR 三江線に乗り松江まで会員 5 名で親睦旅行を行いました。帰りは山陰本線から芸備線で落合経由で三次に帰りました。

令和元年 6 月 22 日には福原広土会会長に出席していただき第 30 回定期総会を、「かんぼの郷庄原」で開催しました。総会には、以前より島根県支部との交流を呼びかけ、寺沢志部長他 2 名の

皆様からの信頼を財産に



八光建設工業株式会社

本社 〒732-0052 広島市東区光町2-4-23

Tel(082)262-8166(代) Fax(082)263-8189

<https://hakkokensetu.co.jp/>



山陽工業株式会社
SANYO CONSTRUCTION CO. LTD

代表取締役 鈴江 克彦 (S62年3月卒)

広島市中区十日市町1丁目1-9 〒730-0805

TEL(082)232-6471 FAX(082)291-2233

<http://www.landingsanyo.co.jp/>

道路埋設指針

建設大臣認定擁壁

PCボックスカルバート ザ・ウォール(H=5.0m)



株式会社 マシノ

本社	〒733-0822 広島市西区庚午中1-19-23	(082) 507 - 2757 (代)
東広島営業所	〒739-2312 東広島市豊栄町別府270	(082) 432 - 4132 (代)
福山支店	〒720-0805 福山市御門町2-5-39	(084) 925 - 8855 (代)
山口支店	〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1130	(083) 973 - 3533 (代)
山陰支店	〒685-0003 島根県江津市松川町下河戸188	(0855) 55 - 0124
本工	〒689-5133 島根県江津市神田町615	(0856) 25 - 2380 (代)

参加を頂きました。
懇親会・2次会を庄原の夜で懇親を深めました。
島根県支部の皆様有難うございました。
その後は、コロナにより、実質活動休止となつてしまいましたが、今年から、コロナも終息し支部活動を復活させようと思います。私も初代支部長和田一雄先輩から支部長を引き受け15年に成ろうとしています。
私と広土会の繋がりは、大学1年に広土会学生幹事となり、卒業後支部創立までの期間を除くと約40年間関わってきましたが、そろそろ支部の若返りを考え、支部の活性化に努めたいと思います。
広土会本部の皆様、そして各支部の皆様、今後ともご支援ご指導を宜しくお願いいたします。
最後になりましたが、広土会の益々の発展と会員皆様のより一層のご活躍をお祈りいたします。

退任挨拶



退任のご挨拶
環境土木工学科 教授
森脇 武夫

広土会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
本年3月をもって退職することになりました。本来は昨年3月に定年退職のはずだったのですが、後任が決まらずもう一年延長していた次第です。今年は無事に後任が決まり、退職させていただけることになりました。6年間の在職中は広土会の皆様大変お世話になり、厚く感謝申し上げます。
私が赴任したのが2018年4月で、それまで広島大学で20年、呉高専で15年教員生活を送ってききましたが、広工大の学生はどのようだろうとやや不安に思っていました。しかし、思っていたより真面目で大人しく、素直な学生が多いように感じています（もちろん例外も少なからずいますが）。ただ、時代の違いか、学校の違いかは判りませんが、勉強やクラブ活動などの大学での生活

が最優先事項でなくなっているようで、昭和の人間としては少し寂しく思っております。
さて、私が赴任した2018年7月には西日本豪雨災害が発生し、広島県内でも大きな被害が出ました。翌日から国交省の依頼で尾道松江自動車道路や広島県道路・国道31号の被害調査と応急・復旧対策の検討に参加しました。大学のある広島市西区は被害がなく、授業は直ぐ再開しましたが、私の住んでいる東広島市からの通勤手段は新幹線しかなかったため、東広島駅周辺の駐車場がなく、東広島駅へ行くのが大変でした。西日本豪雨災害に関しては土木学会と地盤工学会の調査団にも参加し、調査・報告会も行いました。個人的にはこれをネタに論文を2本書かせていただきました。
また、在職中の大きな出来事として、2019年末から始まり、2020年春に本格化した新型コロナウイルス感染症の感染拡大があります。初めての出来事で教員・学生ともに対処に混乱しました。特に、2020年に入学し、今年卒業する学生にとっては入学直後の4月は授業がなく、5月から始まった授業もオンライン授業でクラブ活動もできず、大変な時期を送ったことと思います。我々教員もこれまでの教育方法の見直しを与儀なくされ、様々なオンライン授業方法を導入することになりました。対面で1回限りの授業は貴重で価値のあるものですが、自分の好きな時に繰り返し自学自習が可能なオンライン授業方法も使い方によって非常に有効な学習手段だと実感できました。
4月からは非常勤講師として、月曜日に1コマ授業を担当することになっております。大学で顔を見掛けることもあるかと思っておりますので、お声を掛けていただければ幸いです。最後になりましたが、広土会の皆様および本学科の益々の発展を祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。



退任のご挨拶
環境土木工学科 教授
堀部 秀雄

桜花咲きこぼれる春うららの季節、広土会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び

申し上げます。
さて私こと、32年間勤めさせていただいた広島工業大学を2024年3月末日にて退職いたしました。この長き歳月にわたって皆様から頂きましたご厚情・ご親切に深く感謝申し上げます。
思い出話をさせていただきます。私は1991年の4月、本学の一般教育の英語の講師として着任しました。そしてその2年後、大学設置基準の大綱化に伴い、一般教育という教員組織は解体され、全員が「分属」という形で別々の学科に再配属されることになりました。その時どの学科に行きたいかという希望調査があったので、私は「土木工学科」と記入しました。その理由は、正直なところ土木に興味があったからではありません。はっきりとは思いつけないのですが、誰からとなく「雰囲気の良い学科」と聞かされたからだったように思います。

とはいえ、文学部英文科の出身で、前職は専門学校英語科の教員であった私にとって、工学部土木工学科というのは全く未知の世界で、ちょっと怖いイメージもありました。しかしいざ新2号館に引っ越してみると、まわりはほとんどが年長の先生方でしたが、皆さんとても温かく、また気さくに接してくださり、「やはり土木を希望して正解だったな」と思ったものでした。
爾来星霜移り人は去り、また新しい人が来られました。多士済々ではありながら、人柄の真率な方ばかりで、学科内で人間関係に悩むようなこともなく（勿論どんな人間の集団にも必ず軋轢はありますから、摩擦係数ゼロとは言いませんが）、大変心地よく勤めさせていただきました。この学科で出会った先生方に改めて御礼申し上げます次第です。
授業の方は、英語の教員ですから、全学の学生を担当してきましたが、やはり土木のクラスは毎年必ず持ちました。30数年ですから、計算すれば二千人を超える土木の学生に接したことになります。当然多様な人物がいましたが、真面目で素直な学生がほとんどで、教室においても気持ちよく過ごさせていただいたと思っております。学生諸君にも感謝至極です。

長年土木工学科（若干の名称変更はありましたが）に在籍しながら、恥ずかしながら土木工学については深く学ぶこともなく、ただひたすらに英語を教えてきた私ですが、一つ強く思うことは、土木工学科は土木技術者という社会に求められる人材の育成に直接に結びついていて、その意味で「社会に奉仕する」という本学の教育方針に最も沿う学科であるということです。とすると「ものづくり」の重要性が軽く見られがちな昨今の風潮ですが、やはり工学部は工業大学の一番太い柱であり、土木工学科はその中心をなす学科であると思います。工大土木の卒業生の皆様が本学で培った知識と技能を存分に発揮され、今後とも人々のために大いなる使命感をもって活躍されることを祈念いたします。

事務局だより

広土会の活動は会員の会費納入で運営されています。同封の広土会会費の納入と連絡先確認のお願い用紙の会費納入欄の右欄の○年3月の○が空白、会費未納あるいは期限切れの方はこの点を御理解いただき、会費の納入をお願い致します。終身生3月の方は会費の納入の必要はありません。

また、21期生の方は会費5,000円納入で終身に移行できますので納入の方よろしくお願いいたします。

広土会のホームページのアドレスは下記のとおりです。広土会55周年記念事業等を閲覧するには、パスワードが必要となっております。パスワードは下記のとおりです。入力間違いないようお願いいたします。

広土会新聞は会員の情報誌です。今年度は、6期生－50周年、16期生－40周年、26期生－30周年、36期生－10周年、46期生－10周年を迎えます。記念祝賀会等を行われる場合には事務局にご連絡をいただければご協力いたします。

皆様からの情報、ご意見、ご感想をお待ちしております。FAX、またはメールでご連絡下さい。広土会新聞に投稿記事があれば併せてお願いいたします。

*事務局には専属の事務員がいません。恐れ入りますがご連絡等はFAXかメールにてお願いいたします。

HPアドレス：<http://www.kodokai1968.jp/>
パスワード：kodokai2014
FAX (082) 921-8976 E-mail：kodokai@cc.it-hiroshima.ac.jp

洋ようと 伸びのびと 夢をかたちに

 洋伸建設株式会社

代表取締役 山本 晴樹

本 社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1 TEL(082)511-4520
ア・バンビュ・グランドタワー7F FAX(082)511-4521
営業所 福山・呉・廿日市・山口・四国・九州
事業所 黒瀬
ホームページ <http://www.yoshin-const.co.jp/>

 株式会社 神 崎 組

代表取締役社長 神 崎 文 吾

本 社 姫路市北条口三丁目22番地
T E L 姫路(079)223-2021(代表)
F A X 姫路(079)281-8191
支 店 大阪
事業所 敦賀・三木・岩国

夢から感動へーハートテクノロジー

 東洋建設

執行役員支店長 藤井 広記

中国支店：広島市中区銀山町3-1 ひろしまハイビル2111F
TEL:082-567-5051 FAX:082-258-5757